地域教育情報誌
中北.com
チュウホク　ドット　コム

中北教育事務所
教育支援スタッフ
TEL 0551-23-3046

中北の地域社会（community）の心の交流（communication）をめざします

Pickup!

中北地区地域教育推進連絡協議会

あなたが照らす灯りになる　あなたを照らす灯りになる

10月15日、敷島総合文化会館において中北地区地域教育推進連絡協議会主催の地域教育フォーラムが開催されました。今回のフォーラムのテーマは「あなたが照らす灯りになる　あなたを照らす灯りになる」。学校・家庭・地域の連携促進と地域の教育力向上を目指す同協議会の呼びかけのもと、さまざまな立場から約150名が参加しました。

元気届ける演奏

会の幕開けを飾ったのは、甲府城西高校吹奏楽部による演奏です。44名の部員による息の合った、迫力あるサウンドが会場いっぱいに響き渡りました。ダンスも織り交ぜたエネルギッシュな演奏に大きな拍手が送られ、高校生たちのいきいきとした姿が参加者に笑顔と元気を届けました。







心から楽しむ

今回の講演者はプロマウンテンアスリートの山本健一さんです。山本さんは、100マイルレースをはじめ、世界各国でトレイルランニングや自転車競技の大会に挑戦し、活躍しています。

講演では、「待っているだけでは巡り会えない出会いがある。自分から動くことが大切。」と語り、競争相手が一生の友人になることもあると話しました。

また、ほとんど睡眠を取らずに走り続ける過酷なレースについても、「本気だからこそ楽しい」と笑顔で語る姿が印象的でした。「100マイルも一歩一歩。人生も明るい未来を思い描きながら一歩一歩前へ。」と語った山本さん。参加者は、その言葉と笑顔から、挑戦する勇気と前向きに歩んでいく力を受け取ったようでした。

アンケートより
- 「好き」に出会うことの大切さを改めて思いました。「やりたい」ことを応援できる社会でありたいと思います。
- 困難も受け止め方次第だと感じた。どんな困難な時でも山本さんのように楽しんで乗り越えたい。子どもにもそんな力をつけさせたいと思った。

Pickup!

地域の一員として
～中央市の総合防災訓練と玉穂中学校の防災教育

10月4日、中央市の総合防災訓練が行われ、市内各小中学校の児童生徒も各自治会の訓練に参加しました。小中学校ではこの日に向けて防災について学びを深めており、防災訓練はその学習成果を地域に発信する機会となりました。



答えのない授業

9月30日、玉穂中学校（藥袋 貴 校長）では、地区ごとに防災学習に取り組んでいました。前の週には、生徒だけでなく教職員にも予告なしの避難訓練を実施するなど、防災教育に力を入れています。この日の活動では、応急手当法や各地区の危険箇所の確認など、それぞれの課題に取り組みました。大規模水害発生時の想定最大浸水深である10mのテープを校舎３階の窓から垂らし、より高い場所への避難の必要性について考える班や、端末で調べながら身近な物を活用して担架を作る班もありました。「答えのない授業なので、生徒たちの疑問そのものが学びの題材になっています。」と担当の先生は話してくれました。





地域防災の担い手

総合防災訓練当日、集まった地域住民に対して、生徒たちは災害時における各地区の強みや危険箇所について発表しました。その中では「災害時に、広い敷地を持つ企業と連携はできないか」「水害を想定して防災グッズの保管方法を見直す必要はないか」など、地域の実情を踏まえた提案も行いました。その後、先生とともに応急手当法や止血法を紹介しました。

発表を終えた生徒は、「自分たちの学んだことが、地域の人たちの防災意識を高めることにつながってほしい。」と話していました。自主防災会長からは「災害時はまず地域で力を合わせて互いの命を守ることが大切。中学生の姿は心強い。」という言葉が聞かれました。

非常時には、一人一人の防災意識と人とのつながりが欠かせません。自分の住む地域について考え、学びを発信した経験は、生徒たちに「この地域を守りたい」という思いを育んだことと思います。また、その姿は大人たちにとっても、地域を守り次世代へつなぐ責任を再確認するきっかけになったのではないでしょうか。市を挙げて行った防災訓練からは、地域の絆を深め、支え合える地域づくりにつながる力を感じました。

Pickup!

科学のおもしろさ教えます
～韮崎高校のSSH科学きらきら祭り



9月19日、「SSH科学きらきら祭り2026 in 韮高」が開催されました。

韮崎高校（小笠原 宏 校長）は、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定校として、地域の科学教育への貢献に取り組んでいます。このイベントは、その活動の一環として毎年開かれている小学生向けの科学実験・工作教室です。当日は約40名の小学生が参加しました。



高校生がお出迎え

講師役や案内役を務めたのは、自然科学部や文理科の生徒を中心とする約70名の高校生たちです。科学のおもしろさを感じてもらえるよう、夏休み前から実験や工作の内容を工夫しながら準備を進めてきました。会場では、普通科の他の部活動や生徒会の生徒も加わり、来場した小学生を温かく迎えました。



科学の不思議を体験

校内には８つのブースが設けられ、小学生はそれぞれのブースで実験や工作に挑戦しました。高校生は「楽しいね。」「上手にできたね。」と声をかけながら一人ひとりに寄り添ってわかりやすく説明しました。液体窒素でマシュマロを凍らせたり、凍ったみかんで釘を打ったりする実験では、小学生から「なんで？」「すごい！」と驚きの声があがりました。また、段ボールの空気砲で空気の動きを確かめるコーナーでは、夢中になって何度も挑戦する小学生の姿も見られ、会場は笑顔と歓声に包まれていました。



参加した小学生にとって、自分の目で見て実際に試しながら科学の不思議に触れる貴重な体験となりました。高校生からは、「小学生が『こうしたらどうなるかな』と考えを巡らせる姿を見ることができた」との感想も聞かれ、子どもたちが夢中になる姿に手応えを感じている様子でした。

高校生にとっては、伝えることで学びを深める機会となり、小学生にとっても、高校生の温かな導きのもと、科学の不思議に触れながら知的好奇心を育む時間となりました。

#中北バトン

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを寄せていただきました。

山梨県のボランティア・NPOの活動拠点として

山梨県ボランティア・NPOセンター
運営主体・山梨県ボランティア協会副会長
斉藤節子　さん

皆さんは、山梨県ボランティア・NPOセンターをごぞんじですか？　場所はやまなし地域づくり交流センター（甲府市丸の内2丁目３５－１）の3階にあります。ボランティアをやってみたいという方とボランティアを必要としている方たちをつないだり、NPO団体を立ちあげたい、立ち上げたけれどこんなことで困っているという方たちの支援などを行っています。また、福祉、教育、環境など様々なボランティア活動の情報を集めて紹介したり、研修会や交流会などを開催してボランティア活動者の輪を広げたりしています。

また、このセンターの運営を行っている山梨県ボランティア協会は来年1月に創立50周年を迎えます。50年の歴史の中で大切に育ててきた活動に「福祉教育」があります。その中でも「福祉講話」は、高齢者や様々な障害をもって生活している方たちが直接小学校、中学校、高校に出向き自分のことを話す活動で、参加した子供たちはこれまで可哀そうな人、助けてあげなければならない人と思っていた高齢者や障害者が日々自分らしく精一杯生きていることを当事者から聞き考え方が変わったという感想を寄せています。

AIの普及など社会の変化に伴い、子供たちの生活も様変わりしていますが、福祉やボランティア活動を通して学ぶことは大きくこれからも当センター・協会としても学校、地域と連携して福祉教育の推進に努力していきたいと思っています。ぜひボランティア・NPOの活動、情報拠点としてご活用いただければと思います。

Pickup!

仲間の応援を力に
～白州中学校 新人大会激励会



北杜市立白州中学校（進藤 正美 校長）では、10月5日に、８日から始まる峡北支部新人体育大会に向けた激励集会が行われました。３年生が引退し、新チームで臨む初めての大会です。

ユニフォーム姿で入場した選手たちは少し緊張した様子でしたが、新部長たちは大会に向けた決意を力強く語りました。「目標を達成できるように頑張りたい」「日頃の練習の成果を発揮したい」といった言葉からは、この大会に向けて努力を重ねてきたことが伝わってきました。

生徒会長からの「選手の不安を吹き飛ばすような心強い応援をしましょう」との激励の言葉に続いて、応援団を中心とした全校応援が行われました。「互いの思いを受け取り、頑張る力にしてほしい」という願いが込められたこの全校応援は、約30年前から続く伝統です。選手たちだけでなく応援団もまた、この日のために練習を重ねてきました。「先輩たちの姿に憧れて入団した」という団員たちは、仲間の活躍を願い、大きな声でエールを送りました。全校生徒も声を合わせ、体育館には一体感あふれる力強い声が響きました。

２年生の選手は、「緊張もあるけれど、今日の応援を力に頑張りたい。」と話してくれました。また、「この全校応援は白州中ならではのものだと思う」「とてもいい伝統だと思っている」という声も聞かれ、生徒たちがこの伝統を誇りに思っている様子がうかがえました。

選手たちは仲間からの声援を胸に、それぞれの目標に向かって大会へ臨みます。長年受け継がれてきた応援の声は、今年も選手たちの背中を力強く押していました。

紙面を飾ってみませんか

地域教育情報紙『中北.com』は、年６回（奇数月）発行し、中北地区内の500か所以上に配付しています。学校や地域、各種団体のさまざまな取り組みについて、ぜひ取材させてください。お問い合わせは右記まで。お気軽にお声がけください。

令和８年度『中北.com』No．４
編集･発行 中北教育事務所
担当　花形　健一 ・ 江川 みづほ
〒407-0024　韮崎市本町4－2－4
電話 0551－23－3046